

科学技術の潮流

(296)

JST研究開発戦略センター

科学の最前線を切り開く研究開発には、アカデミア発の先端技術を実用化した高度な研究機器が求められる。

その実現には、アカデミアと産業界が連携し、研究機器の利用で得られる成果までを見据えた、開発の全過程を俯瞰（ふかん）する力が必要である。

産学連携力ギ

研究機器開発は、先端研究の成果を支える研究インフラであり、イノベーションのエコシステムにおいて基盤的な役割を果たす。

研究基盤のエコシステム形成④

俯瞰的視点で機器構想

しかし実際には、技術レベルは高いものがあることに起因する。用途が不明確だったり、操作性に難があったり、操作性に難があったり、普及に至らない例で、普及に至らない例

り、操作性に難があったり、普及に至らない例で、普及に至らない例

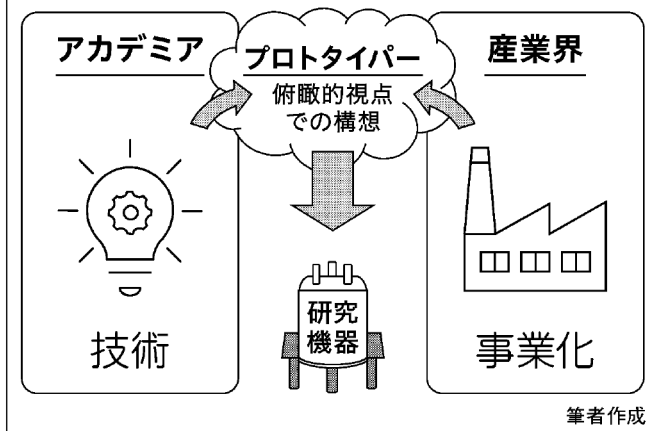
で研究機器へと発展し、ユーザーである研究者によって価値ある成果創出へとつながる流れが重要となる。



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー（横断・融合グループ） 杉村 佳織

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士課程修了。企業でのAI（人工知能）研究開発を経て24年10月よりJSTに出向。研究基盤・研究インフラに関する研究開発戦略立案を担当。博士（理学）。

研究開発への俯瞰的視点の導入



期からアカデミアと企業がある機器は現場で定着しない。

また、ユーザーインターフェースの設計や、ユーザー体験の満足度といった使いやすさの観点も、機器の価値を左右する。研究機器は専門性が高く操作が複雑になる傾向があり、製品化後の活用を見据えた利用設計が欠かせない。

技術開発からその利用、社会的価値までを俯瞰する視点での構想は、先端技術を社会が適切に活用するための力ギとなるだろう。（金曜日掲載）